

# 東三河振興ビジョン

## 【主要プロジェクト推進プラン】

新東名インパクトを活かした地域振興  
～広域観光の新展開～

(中間とりまとめ案)

東三河ビジョン協議会

平成 28 年 12 月

## 目次

I	「主要プロジェクト推進プラン」の策定方針	1
1	テーマの設定	1
2	位置付け	1
3	策定主体	1
4	計画期間	1
II	東三河の観光の現状と課題	2
1	東三河の観光の現状	2
	（1）全体像	2
	（2）観光統計から見た東三河観光	4
	ア 観光客入込数の推移	4
	イ 宿泊者数の推移及び外国人宿泊者	5
	ウ 観光ボランティアガイド数	7
	エ 道の駅の売上額	7
	オ 新東名高速道路開通による影響	8
2	課題	9
III	取組体系及び目標	10
1	取組体系（2つの方針と6つの主な取組）	10
2	目標	11
IV	主な取組内容	13
1	新東名インパクトの検証と活用	13
	（1）新東名インパクトの検証	13
	（2）新東名開通により変化する観光客の動きへの対応	14
	（3）新東名開通効果のPR	16
2	観光に関わる基盤の整備と活用	18
	（1）サービスの質を向上し「稼ぐ力」を創出	18
	（2）観光案内の質の向上・人材の育成	21
	（3）基盤・施設の整備促進	23
V	推進体制等について	25
1	推進体制	25
2	推進プランの進捗状況の把握及び見直しについて	25
VI	平成28年度先導事業	26
1	（仮称）新東名開通効果検証事業（愛知県事業）	26
2	東三河ブランドショップ実証実験（東三河広域連合事業）	26
3	東三河魅力発信事業（東三河広域連合事業）	26
VII	参考資料	27

# I 「主要プロジェクト推進プラン」の策定方針

## 1 テーマの設定

「主要プロジェクト推進プラン」(以下「推進プラン」という。)は、「将来ビジョン」に位置づけた施策を具体化し、着実に推進するため策定するものである。

平成 28 年度は、「将来ビジョン」における重点的施策の方向性のうち「東三河の魅力の創造・発信」を基軸として平成 24 年度に策定した主要プロジェクト推進プラン「広域観光の推進」(以下「24 プラン」という。)の検証を踏まえ、取組の更なる重点化の観点から「新東名インパクトを活かした地域振興～広域観光の新展開～」をテーマに設定した。

## 2 位置付け

県、市町村、東三河広域連合、経済関係団体、観光関係団体、大学、民間事業者、NPO等が連携・協働して展開する実施計画

## 3 策定主体

東三河ビジョン協議会

(県、東三河の 8 市町村、東三河広域連合、経済関係団体、大学等で構成)

## 4 計画期間

平成 29 年度から平成 31 年度までの 3 年間

## Ⅱ 東三河の観光の現状と課題

### 1 東三河の観光の現状

#### (1) 全体像

- 東三河地域では、「将来ビジョン」に基づき平成 25 年度から平成 27 年度までを計画期間とする「24 プラン」を策定し、各取組主体が連携して取組を進めてきた。
- 東三河は、観光資源や豊かな食材など多様な魅力に恵まれている。(表 1) しかし、全国や海外での知名度が高いとは言えず、観光地としての認知度は不足している。
- 24 プランでは、こうした観光資源の活用を図りながら、イベントやスポーツ大会の開催、施設整備等、様々な取組を行い、着実に成果を積み重ねてきた。(表 2)
- その結果、東三河を訪れる観光客は 2,316 万人、宿泊者数は 199 万人を超え、24 プランで設定した目標を概ね達成することができた。
- 平成 28 年 2 月には新東名高速道路(以下「新東名」という。)愛知県区間が開通し、さらなる観光客の増加が期待される。

<表 1> 東三河地域における主な観光レクリエーション資源・施設

観光地点等分類	市町村	観光地点等名	利用者数 (千人)	
観光地点	自然	新城市	鳳来寺山	258
		蒲郡市	竹島園地	405
		蒲郡市	三ヶ根山スカイライン	133
		豊根村	茶臼山高原	138
	自然 計			1,268
	歴史・文化	豊橋市	豊橋総合動植物公園	735
		豊橋市	豊橋市美術博物館	161
		豊川市	豊川稲荷	5,000
		豊川市	砥鹿神社	403
		蒲郡市	竹島水族館	320
蒲郡市		蒲郡オレンジパーク	621	
蒲郡市		ガン封じ寺無量寺	281	
蒲郡市		大塚海浜緑地	226	
歴史・文化 計			8,272	
温泉・健康	豊川市	本宮の湯	331	
	新城市	鳳来ゆーゆーありいな	156	
	蒲郡市	三谷温泉	320	
	蒲郡市	蒲郡温泉	291	
	蒲郡市	西浦温泉	267	
温泉・健康 計			1,615	
スポーツ・レクリエーション	豊川市	赤塚山公園(ぎょぎょランド)	425	
	豊川市	東三河ふるさと公園	300	
	田原市	サンテバルクたはら	505	
	新城市	愛知県民の森	452	
	新城市	東海自然歩道	240	
	蒲郡市	ラグーナテンボス	3,110	
スポーツ・レクリエーション 計			5,724	
都市型観光	田原市	めっくんはうす	642	
	田原市	あかばねロコステーション	338	
	田原市	伊良湖クリスタルポルト	489	
都市型観光 計			2,090	
その他	田原市	蔵王山展望台	154	
	新城市	つくて手作り村	118	
	新城市	もつくる新城	1,132	
その他 計			1,539	
行祭事・イベント	豊橋市	花しょうぶまつり(賀茂しょうぶ園)	200	
	豊橋市	豊橋祇園祭(吉田神社)	110	
	豊橋市	豊橋まつり	620	
	豊川市	豊川市民まつり	270	
	田原市	菜の花まつり	136	
	蒲郡市	蒲郡まつり	220	
	豊根村	芝桜まつり	229	
行祭事・イベント 計			2,650	
総 計			23,158	

※ 「平成 27 年 愛知県観光レクリエーション利用者統計」より利用者数 10 万人以上の施設を抜粋。  
東三河 134 地点中の 36 地点(県全体では 581 地点)

<表2> 「24プラン」における主な取組

平成25年11月	「B-1 グランプリ in 豊川」開催（豊川市）
平成25年11月～	「新城ラリー」メイン会場を新城総合公園に変更（新城市）
平成26年10月	「蔵王山展望台」リニューアルオープン（田原市）
平成26年11月～	「全国ご当地うどんサミット」開催（蒲郡市）
平成27年3月	道の駅「もっくる新城」オープン（新城市）
平成27年4月	「奥三河パワートレイル」開催（新城市、設楽町、東栄町、豊根村）
平成27年4月	道の駅「豊根グリーンポート宮嶋」リニューアルオープン（豊根村）
平成27年10月	「三遠南信食の祭典」開催（豊根村）
平成27年12月	東京・浅草「まるごとにつぼん」へのアンテナショップ出展（豊橋市）

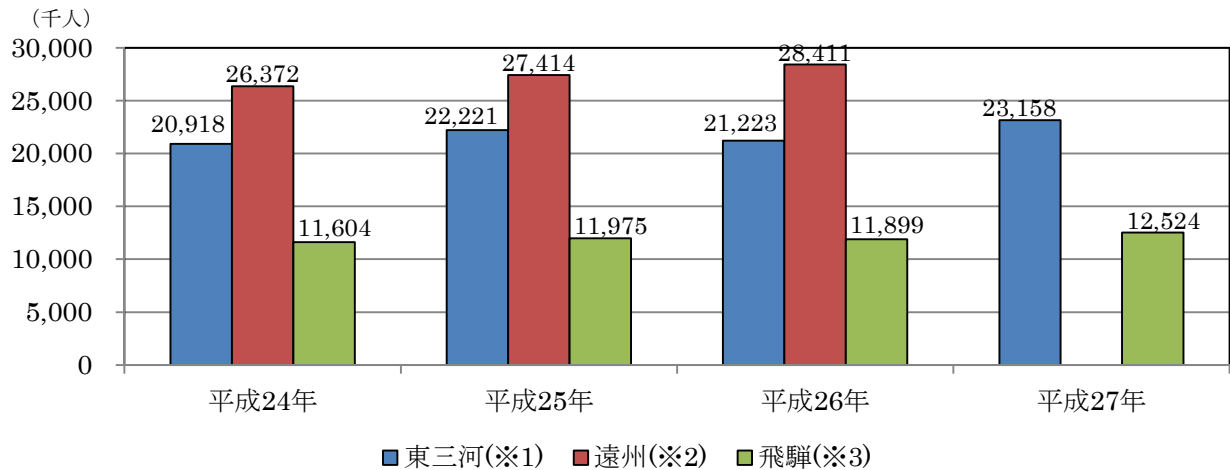
## (2) 観光統計から見た東三河観光

### ア 観光客入込数の推移

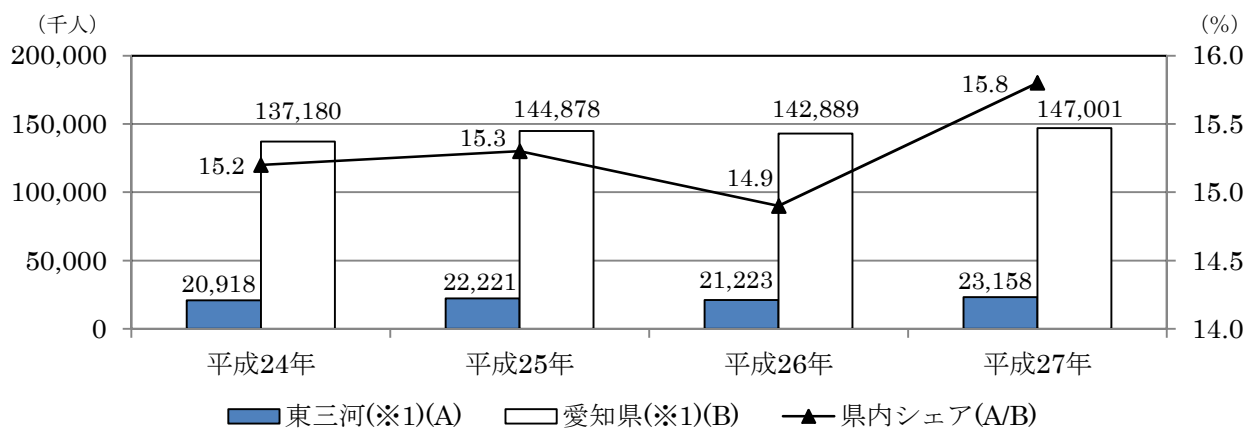
〈図1・2〉

- 平成27年の東三河地域の観光客入込数は、23,158千人。平成24年から3年間で2,240千人、約11%の増加となっている。
- 近隣の観光地と比較すると、飛騨地域の約2倍の規模であるが、一方で、遠州地域に対して8割程度の規模となっている。
- 各地域とも平成25年に増加しているが、愛知県においては「B-1 グランプリ in 豊川」の開催が影響しているものと考えられる。
- 県全体に占めるシェアは、概ね15%程度で推移しているが、平成27年度は15.8%まで上昇している。新東名開通を見越した道の駅等の施設整備が増加の要因となっている。

〈図1〉東三河地域の観光客入込数（県外他地域との比較）



〈図2〉東三河地域の観光客入込数（県全体との比較）



※1 愛知県「愛知県観光レクリエーション利用者統計」による。

※2 静岡県「静岡県観光交流の動向」から浜松市、湖西市、磐田市、袋井市、森町を合計し集計。

※3 岐阜県「岐阜県観光入込客統計調査」による。飛騨地域：高山市、飛騨市、下呂市、白川村

## イ 宿泊者数の推移及び外国人宿泊者

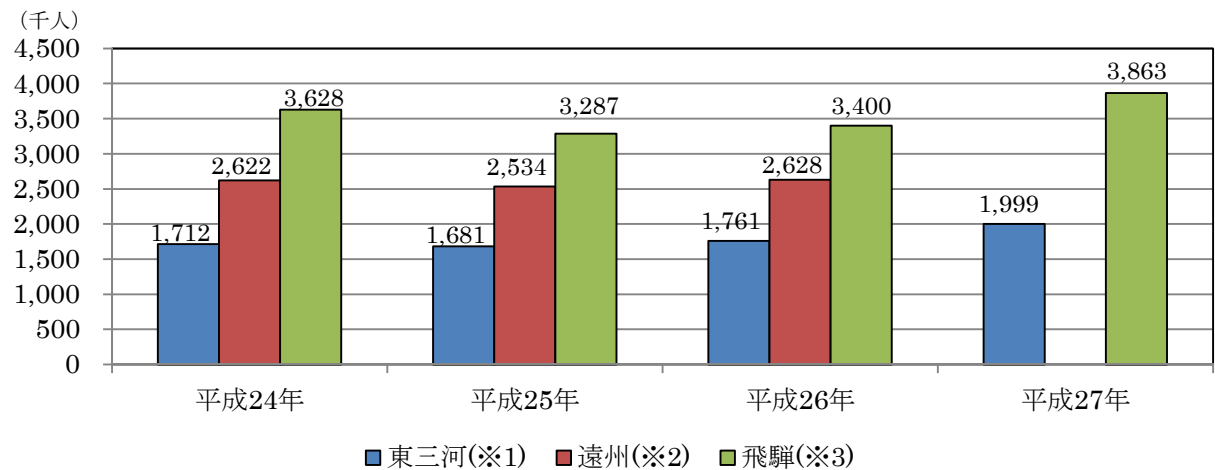
〈図3・4・5〉

- 平成27年の東三河地域の宿泊者は、1,999千人。平成24年から3年間で287千人、約17%の増加となっている。
- 順調に増加しているが、近隣の主要観光地である飛騨地域の2分の1程度の規模にとどまっている。
- 外国人宿泊者の増加が最大の要因となっている。東三河地域の宿泊者数は県全体の14%前後で推移している。一方で、東三河地域の外国人宿泊者数は、平成24年の8.7%から平成27年の14.3%と大きく伸びている。
- 東三河地域は主要な観光地のゴールデンルート上に位置していることから、特に、豊橋市、豊川市、蒲郡市の外国人宿泊者数が大幅に伸びている。

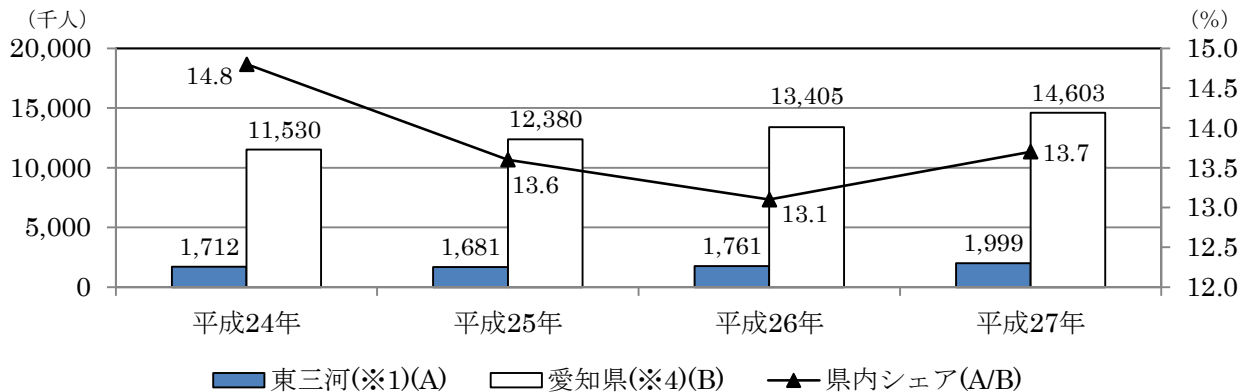
〈図6-1・6-2〉

- 愛知県の外国人宿泊者数の伸び率は、全宿泊者数の伸び率を上回っており、特に平成26年以降は中国人宿泊者数が大幅に伸びている。

〈図3〉東三河地域の宿泊者数（県外他地域との比較）



〈図4〉東三河地域の宿泊者数（県全体との比較）（千人・%）



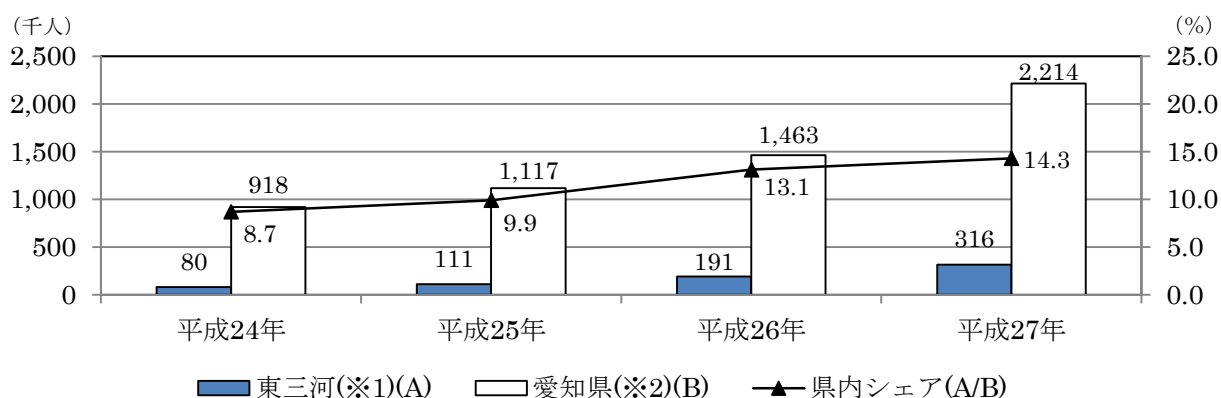
※1 愛知県東三河総局調査による。

※2 静岡県「静岡県観光交流の動向」から浜松市、湖西市、磐田市、袋井市、森町を合計し集計。

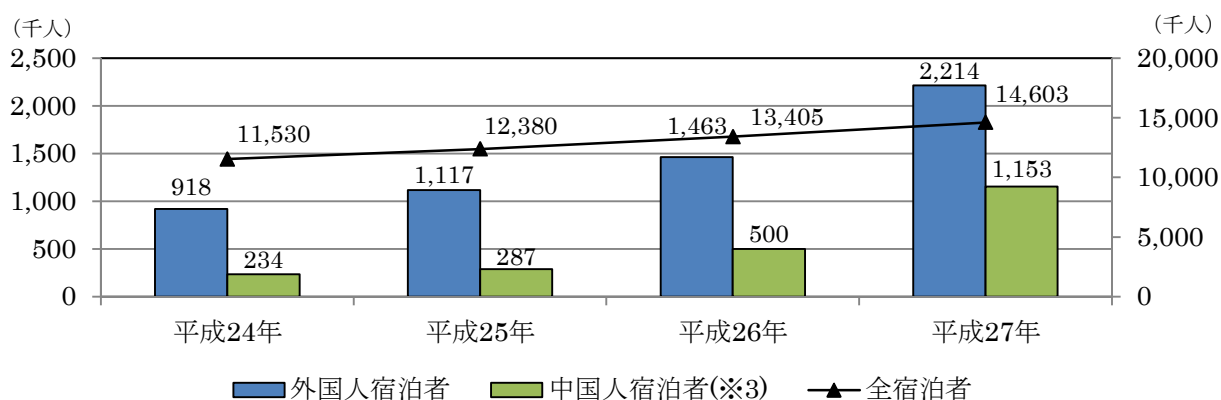
※3 岐阜県「岐阜県観光入込客統計調査」による推計値（実宿泊者数及び平均宿泊数より推計）。飛騨地域：高山市、飛騨市、下呂市、白川村

※4 観光庁「宿泊旅行統計調査」による（従業員数10人以上の施設）。

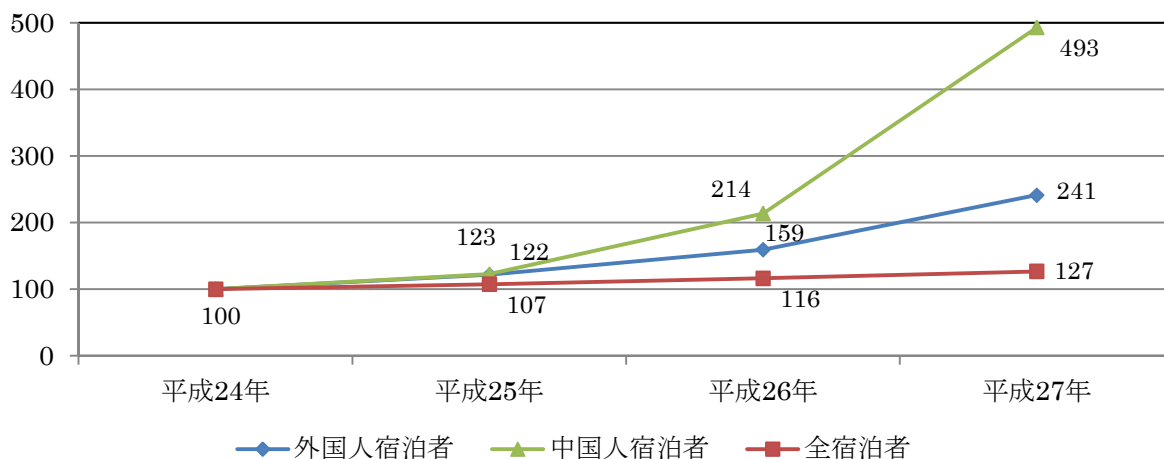
＜図5＞東三河地域の外国人宿泊者数（県全体との比較）（千人・％）



＜図6-1＞愛知県における外国人宿泊者数及び中国人宿泊者数の推移※2



＜図6-2＞平成24年の宿泊者数を100とした場合の指数



※1 愛知県東三河総局調査による。  
 ※2 観光庁「宿泊旅行統計調査」による（従業員数10人以上の施設）。  
 ※3 外国人宿泊者の内数。



## ウ 観光ボランティアガイド数

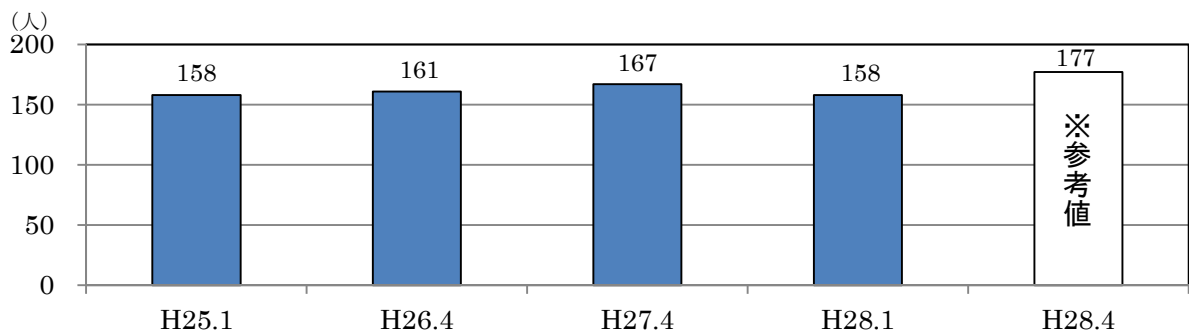
〈図7〉

- 東三河地域の観光ボランティアガイド数は158人（H28.1月末現在）<sup>※1</sup>となり、平成27年度で計画期間が終了した24プランの目標であった180人には到達しなかった。

愛知県全体の観光ボランティアガイド数は2,063人<sup>※1</sup>で、県民3,627人<sup>※2</sup>に一人の割合であるのに対し、東三河地域では4,794人に一人の割合であり、ボランティアガイド活動の裾野は、拡大する余地がまだあると考えられる。

なお、H28.4時点では、新城市において「設楽ヶ原ボランティアガイドの会」（会員数19名）が発足したことにより、177人となっている。

〈図7〉観光ボランティアガイド数



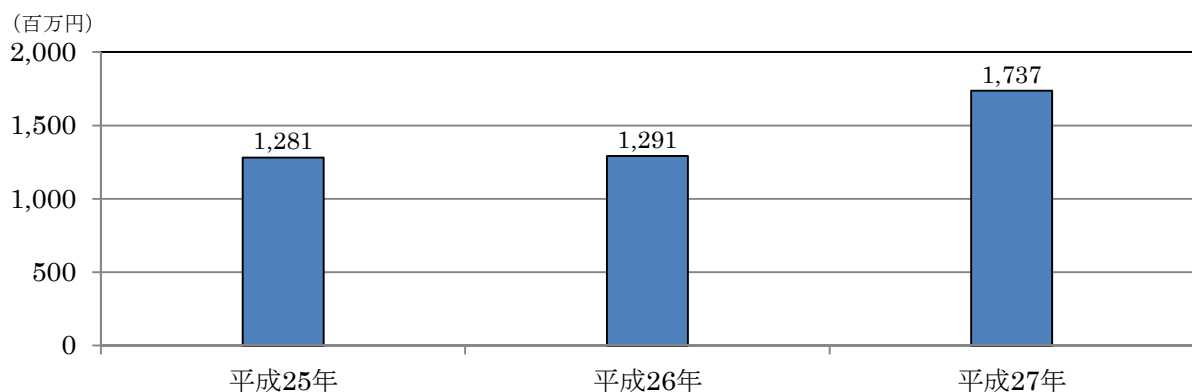
## エ 道の駅の売上額

〈図8〉

- 東三河地域に所在する主な道の駅<sup>※3</sup>の年間売上額合計は、1,300百万円程度で推移していたが、平成27年度は前年度から446百万円増となる1,737百万円と大きく伸びている。

平成27年度に道の駅「もっくる新城」がオープンしたこと及び道の駅「豊根グリーンポート宮嶋」がリニューアルオープンしたことによる影響が大きいですが、他の道の駅でも売上額が伸びている。

〈図8〉東三河地域の道の駅の売上額合計



※1 観光ボランティアガイド組織に属する観光ボランティアガイド数  
(東三河分：愛知県東三河総局調査、愛知県分：愛知県観光協会提供資料)

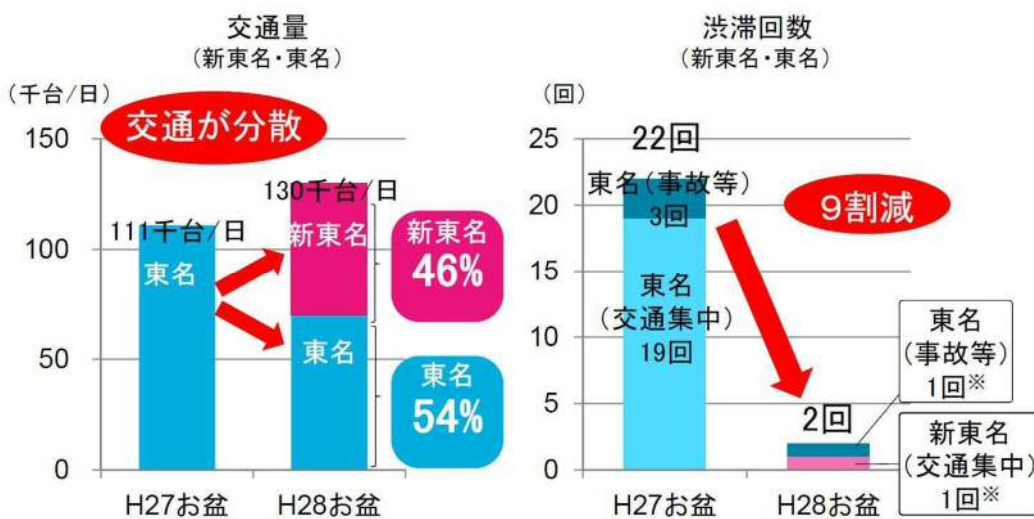
※2 平成27年国勢調査人口による。

※3 併設する地域振興施設内の売上額を市町村が把握している道の駅。  
鳳来三河三石、つくで手作り村、もっくる新城（新城市）、田原めっくんはうす、あかばねロコステーション（田原市）、つぐ高原グリーンパーク、アグリステーションなぐら（設楽町）、豊根グリーンポート宮嶋（豊根村）の8施設。

## オ 新東名高速道路開通による影響

- 新東名愛知県区間の開通により、既に開通している新東名静岡県区間や新名神高速道路等とともに、関東～中部～関西の移動時間の大幅な短縮や渋滞緩和等の効果が生まれた。
- 新東名愛知県区間の開通後 3 カ月間の新東名・東名高速道路の渋滞状況は、前年同時期の 115 回から 7 回へと約 9 割減少し、奥三河地域への日帰り圏域（圏域人口）が約 2.1 倍に拡大する等の影響が生まれ、県外からの来訪者数も増加した<sup>※1</sup>。  
また、新東名・東名高速道路を合わせたお盆期間<sup>※2</sup>の交通量は、約 13 万台と前年同時期に比べ約 17%増加したが、渋滞回数は 22 回から 2 回と大幅に減少した<sup>※3</sup>。

### ■新東名開通後の交通量・渋滞回数〔お盆期間〕



※ 新東名の交通集中渋滞は、同日 (8/13) に東名で発生した事故渋滞に伴う迂回交通によるもの  
 (注) 渋滞の定義〔お盆期間〕：速度40km/h以下の状態が、1km以上かつ15分継続した状況で最大渋滞長が10km以上

中日本高速道路株式会社 平成 28 年 8 月 17 日発表資料より抜粋

※1 新東名（愛知県）開通効果検討会議 平成 28 年 8 月 5 日記者発表

※2 平成 28 年 8 月 6 日（土）～8 月 16 日（火） 比較対象は平成 27 年 8 月 8 日（土）～8 月 18 日（火）

※3 中日本高速道路株式会社 平成 28 年 8 月 17 日記者発表

## 2 課題

「1 東三河の観光の現状」を踏まえると、東三河の観光振興において重点的に取り組むべき課題は、以下のとおりと考えられる。

### ① 新東名開通による変化への対応

新東名開通による時間短縮や渋滞緩和効果によって、自動車を利用した観光客の更なる増加が期待される。

観光客の行動の変化を的確に捉えた、より効果的なプロモーションの展開やサービスの提供が求められている。

### ② 観光客数の増加を収益に結び付ける取組の充実

24プランの数値目標のうち、東三河地域の観光客入込数と宿泊者数については目標を概ね達成した。次の段階では観光客の増加を収益に結び付ける取組が求められる。観光客の消費動向を把握し、滞在時間の増加、他のスポットへの誘導、リピーター増加等に向けた取組を検討する必要がある。

### ③ 観光客をおもてなしするマンパワーやインフラの不足への対応

24プランの数値目標のうち、観光ボランティアガイドの数については、目標に到達しなかった。引き続き人材育成に取り組んで行く必要がある。更に、観光案内所や道の駅などにおける案内業務の充実、学生など若い世代の参加に向けた働きかけ、観光人材を支援する環境の充実等にも取り組んでいく必要がある。

また、道路、駐車場、トイレ、Wi-Fi設備等、観光客が利用するインフラも依然として不足しており、既存のインフラの有効活用も含め、対応を検討する必要がある。

### ④ 海外からの誘客強化

国内の生産年齢人口の減少に伴い国内需要が縮小していく一方、インバウンド市場は拡大している。

東三河は、東京から京都・大阪を結ぶゴールデンルート上に位置しており、このルートを移動する外国人観光客の宿泊や飲食は増加しているが、域内を周遊する外国人観光客は少ない。

このため、多言語による案内などの受入体制整備や、より広域的に連携した取り組みによる誘客、周遊への誘導が必要となっている。

### Ⅲ 取組体系及び目標

#### 1 取組体系（2つの方針と6つの主な取組）

前述のような課題認識のもと、東三河の広域観光を推進する取組を次のとおり整理した。

##### 〔2つの方針と6の主な取組〕

##### 1 新東名インパクトの検証と活用

- (1) 新東名インパクトの検証
- (2) 新東名により変化する観光客の動きへの対応
- (3) 新東名開通効果のPR

##### 2 観光に関わる基盤の整備と活用

- (1) サービスの質を向上し「稼ぐ力」を創出
- (2) 観光案内の質の向上・人材の育成
- (3) 基盤・施設の整備促進

## 2 目標

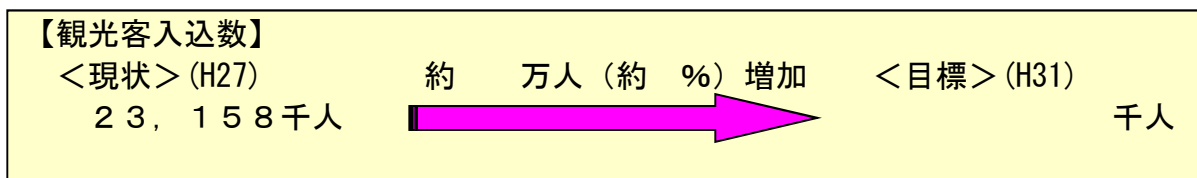
### (1) 目標設定の考え方

- 今後迎える本格的な人口減少社会の到来に伴い、国内の観光交流人口の大幅な拡大は難しいと言われているが、当地域においては、新東名開通による日帰り圏域の拡大等、新たな交流人口獲得の好機が到来している。本プランにおいても、引き続き観光客、宿泊者の増加に向けた取組に力を入れていく。このため、24プランの目標のうち、観光客入込数と宿泊者数については、本プランにおいても引き続き目標に掲げる。
- さらに、本プランでは、観光客数の増加を収益に結び付ける取組にも力を入れていくことから、地域内の観光消費の動向を把握できる指標が必要となる。  
東三河の観光地は、公共交通によるアクセスが不便な所が多く、車による観光が一般的である。  
道の駅は、休憩、現地での情報収集、食事、土産物の購入など車で旅行する観光客にとって必要な機能を集約した施設であり、利用頻度が高い。  
したがって、道の駅の売上額は、東三河を旅行する観光客の消費動向に本プランの取組が与える影響の測定に適した指標であり、その推移を把握することにより、地域内の観光消費の動向をある程度把握することができると考えられることから、目標に掲げることとする。

### (2) 目標

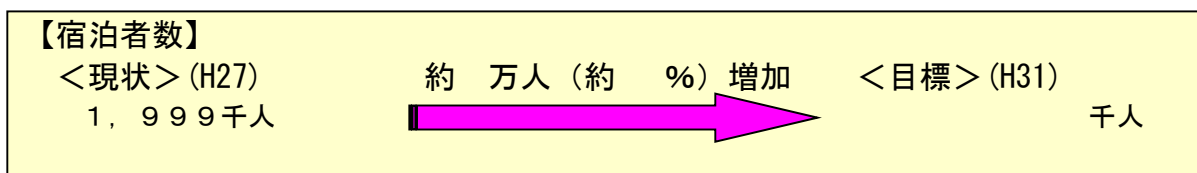
#### 目標1 観光客入込数の増加

観光交流人口の拡大を図るため、東三河地域の「観光客入込数」を指標として、現状から約 万人の増加を目指す。



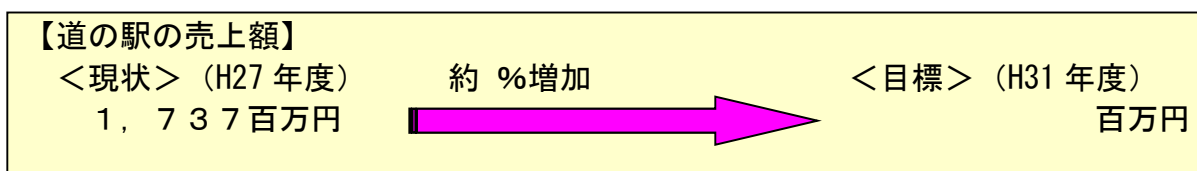
#### 目標2 宿泊者数の増加

観光交流人口の拡大を図るため、東三河地域の「宿泊者数」を指標として、現状から約 万人の増加を目指す。



#### 目標3 道の駅の売上額の増加

観光消費額の増加を図るため、東三河地域の「道の駅の売上額」を指標として、現状から約 %の増加を目指す。



- ※ 併設する地域振興施設内の売上額を市町村が把握している道の駅。  
鳳来三河三石、つくで手作り村、もっくる新城（新城市）、田原めっくんはうす、あかばねロコステーション（田原市）、  
つく高原グリーンパーク、アグリステーションなぐら（設楽町）、豊根グリーンポート宮嶋（豊根村）の8施設。

## IV 主な取組内容

### 1 新東名インパクトの検証と活用

#### (1) 新東名インパクトの検証

- 新東名の開通効果については、道路管理者である NEXCO 中日本が調査・分析を行っているが、交通量の把握を基本としており、高速道路を利用して東三河に来訪する観光客の行動の変化については、十分な検証が行われていない。
- このため、ビックデータ※1を活用して新東名開通前後の観光客の行動パターンの変化等を分析し、新東名開通インパクトの実態を把握する。
- 併せて、各観光施設等で実施されている来訪者アンケート等を活用し、東三河地域の観光に関するデータの収集・調査結果の情報共有等を図る。

#### 【工程表】

取組内容	主な取組主体	実施年度		
		H 2 9	H 3 0	H 3 1
<b>①新東名開通インパクトの検証</b> ・開通インパクト影響調査の実施 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">             H28 先導事業              ・新東名開通効果検証事業(県)           </div>	県、市町村			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           ・新東名開通効果の検証            ・来訪者アンケート、交通量調査、ナンバー調査等の実施         </div>				
<b>②観光に関するデータの収集</b> ・来訪者アンケート等を活用したデータの収集・共有・活用	県、市町村、観光関係団体、経済関係団体、民間事業者等			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           ・各観光主体による来訪者アンケート調査等の共通項目検討、調査結果の情報共有            ・調査結果の分析・活用の検討         </div>				

※1 典型的なデータベースソフトウェアが把握し、蓄積し、運用し、分析できる能力を超えたサイズのデータを指す。

## (2) 新東名開通により変化する観光客の動きへの対応

- 新東名開通による時間短縮・渋滞緩和等の効果により、観光客の滞在時間や旅程に変化が生じている。名古屋圏において、東三河は宿泊型の観光地として認識されることもあったが、開通後は、「行きたいと思った時に何度でも行ける」観光地として選択されるケースも増えることが予想される。新東名開通インパクトの検証結果等からこうした変化を的確に捉え、対応することで、大きな効果が期待できる。
- 年齢、性別、嗜好、アクセス方法等の属性により観光客のニーズは異なる。新東名開通後の新たな観光動態を分析することでニーズの変化を的確に捉え、魅力的なコンテンツを創りだすとともに、新たな観光ルートの検討や既存の観光ルートの見直し等周遊性の強化を図ることにより、観光客の増加と滞在時間の拡大を図る。

### 【工程表】

取組内容	主な取組主体	実施年度		
		H29	H30	H31
<b>①変化する観光客の動きに対応した観光コンテンツの充実</b> ・新東名開通効果を活かした観光サービスや周遊ルートの検討・見直し	県、市町村、観光関係団体、経済関係団体、民間事業者、医療関係団体、東三河ジオパーク構想推進準備会			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境を活かしたエコツーリズム、森林観光、グリーンツーリズム及びペイツーリズムの推進</li> <li>・東三河の魅力を満載したウォーキングやハイキング、サイクリングコースの設定・充実</li> <li>・特色ある鉄道網を活かしたツアー造成などの周遊促進策の実施</li> <li>・JR 飯田線、名鉄西尾・蒲郡線等の鉄道網を活用したツアー造成などの周遊促進策の実施</li> <li>・自動車産業観光の推進（東三河広域経済連合会）</li> <li>・ヘルスケアツーリズム等におけるラグーナテンボスとの連携（東三河広域経済連合会）</li> <li>・山城、史跡の案内表示の充実など愛好家の来訪を促す環境整備</li> <li>・公共施設等を活用したインフラツーリズム実施の検討</li> <li>・ダム建設ツアーの実施（設楽町）</li> <li>・ジオサイト調査とジオツアーの実施（東三河ジオパーク構想推進準備会）</li> <li>・「あいちの都市・農村交流ガイド※1」により、地域資源や体験モデルルートを紹介（県）</li> </ul>		
・重点資源である「食」・「花」・「炎」を核とした観光の推進	民間事業者、観光関係団体、経済関係団体、農林水産業関係団体、広域連合、食農産業クラスター推進協議会、県、市町村			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご当地グルメ観光の推進</li> <li>・6次産業化等による魅力ある特産品等の開発</li> <li>・四季や毎月の花の魅力を活かした観光の推進</li> <li>・手筒花火を始めとした炎の魅力を核にしたイベントの開催</li> </ul>		

※1 あいちの都市・農村交流ガイド:食と緑の基本計画及び各地域推進プランに位置づけられた「農山漁村の地域資源」や「農と山と海の幸体験モデルルート」を収集し、都市と農山漁村の交流を推進することを目的としたデータベース。  
<http://www.pref.aichi.jp/nogyo-shinko/aichiguide/index.html>



取組内容	主な取組主体	実施年度		
		H 2 9	H 3 0	H 3 1
・観光施設の整備	県、市町村、観光関係団体、経済関係団体、民間事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東海道二川宿でおもてなし事業（豊橋市）</li> <li>・のんほいパーク魅力創造事業（豊橋市）</li> <li>・旅籠大橋屋保存整備事業（豊川市）</li> <li>・赤塚山公園改築事業（豊川市）</li> <li>・平和公園（仮称）整備事業（豊川市）</li> <li>・桜淵公園再整備事業（新城市）</li> <li>・サーフスポットの整備（田原市）</li> <li>・歴史民俗資料館（仮称）整備（設楽町）</li> <li>・道の駅清嶺（仮称）整備（設楽町）</li> <li>・観光スポット整備事業（東栄町）</li> <li>・観光・交流拠点施設の整備充実（豊根村）</li> </ul>		
②広域的な周遊性の強化				
・ドライブ客の周遊促進	市町村、観光関係団体、民間事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅や高速道路のサービスエリア・パーキングエリア、観光案内所等における観光案内等の充実</li> </ul>		
・大規模集客施設を拠点とした周遊促進	民間事業者、観光関係団体、市町村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模集客施設を拠点とした周遊コースの設定及び観光スポットの案内充実化</li> </ul>		
・圏域を越えた広域観光連携の推進	観光関係団体（市町村と連携・推進）、民間事業者、GOGO 三河湾協議会、鳥羽伊良湖航路活性化協議会、三遠南信地域連携ビジョン推進会議、愛知・長野県境域開発協議会、市町村、県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内他地域、伊勢志摩、遠州、南信州等隣接地域との連携促進</li> <li>・大河ドラマ「おんな城主直虎」を契機とした連携促進</li> <li>・武将観光や三河湾観光に取り組む西三河地域など隣接圏域との連携促進</li> <li>・伊勢神宮への参拝者を東三河で周遊・宿泊させる仕組みづくり</li> <li>・GOGO 三河湾事業（蒲郡市、田原市）</li> <li>・鳥羽伊良湖広域観光推進（田原市）</li> <li>・日本遺産登録に向けた取組（三遠南信地域連携ビジョン推進会議）</li> </ul>		

### (3) 新東名開通効果のPR

- 新東名開通により、東三河への所要時間が大幅に短縮され、渋滞緩和等運転者の負担も軽減された。とりわけ、尾張、西三河の住民にとっては、思いついた時に足を運べるエリアとして、これまで遠く感じていた東三河を身近に感じてもらう好機であることから、東三河に「速く楽に行ける」ようになったことを積極的に情報発信する。
- 地域外に対して東三河の観光情報を発信する機会は限られている。「速く楽に行ける」ようになったことを印象付けるためには、東三河の観光振興に関わる主体がバラバラに情報発信するのではなく、情報を絞り込み、統一した情報発信が有効である。そこで、(1)の調査結果も踏まえながら、新東名開通効果を活かした広域観光ルートやサービス内容、情報発信の切り口等の再検討等を実施し、その結果を反映させながら、東三河が一体となって積極的にプロモーションを展開していく。また、サービスの質の向上を通じて、リピーターの獲得に力を入れていく。

#### 【工程表】

取組内容	主な取組主体	実施年度		
		H29	H30	H31
<b>①地域外に向けたPRの実施</b> ・地域外（東京圏・名古屋圏等）に向けたPR活動の充実 H28 先導事業 ・東三河魅力発信事業（東三河広域連合）	県、市町村、広域連合、観光関係団体、農林水産団体、経済関係団体			
地域外（東京圏・名古屋圏等）での観光展・物産展の開催 H28 先導事業 ・東三河ブランドショップ実証実験（東三河広域連合）	観光関係団体、農林水産団体（県・市町村と連携・推進）、市町村、広域連合			
・東京圏在住の東三河地域出身者との連携	県、市町村、広域連合			
・ICTを活用した情報発信力の強化	県、市町村、広域連合、観光関係団体、経済関係団体、民間事業者			
<b>②東三河が一体となったPRの実施</b> ・地域が連携・協力し、一体となったプロモーション活動の展開	県、市町村、広域連合、観光関係団体、経済関係団体、民間事業者			

取組内容	主な取組主体	実施年度		
		H 2 9	H 3 0	H 3 1
・地域外の視点も踏まえた PR 素材の絞り込みと情報発信	県、市町村、広域連合、観光関係団体、経済関係団体、大学、民間事業者等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大都市圏等におけるアンケート調査や体験型イベントの実施</li> <li>・在住外国人・留学生等との連携による情報発信及びアンケート調査の実施</li> <li>・ターゲットを明確にしたキャッチコピー等の検討</li> </ul>		
・知名度の高い既存ブランドを活用した PR 活動の検討・実施	県、市町村、広域連合、観光関係団体、経済関係団体、民間事業者等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR 飯田線等の鉄道網を活用した PR の検討・実施</li> <li>・東三河の文化・芸術・歴史等の PR 手法の磨き上げ</li> <li>・手筒花火や花祭等伝統文化を活かしたツアー企画</li> <li>・豊橋駅や JR 飯田線等の知名度を活かした、東三河の位置情報の発信方法に関する検討</li> </ul>		
・パンフレットやチラシなどの各種プロモーションツールの体裁の共通化検討	市町村、広域連合、観光関係団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討、ツールの更新に合わせて段階的に共通化</li> </ul>		
・地域のネットワークを活かした情報発信力の強化	観光関係団体、農業関係団体、民間事業者、市町村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関相互の連携・協力による観光情報の充実・発信及び共同プロモーションの実施</li> </ul>		
・効果的なメディア戦略の推進	県、市町村、広域連合、観光関係団体、民間事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアの関心を惹きつける地域資源を活かした取り組みの検討</li> </ul>		
<b>③リピーターの獲得に向けた取組</b>				
・オフシーズンの魅力の発掘及び発信	県、市町村、広域連合、観光関係団体、経済関係団体、民間事業者、NPO 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史遺産等オフシーズンでも楽しめる観光資源を活用したコンテンツの開発・PR</li> </ul>		
・対象を宿泊客に絞った観光コンテンツの開発と PR の展開	県、市町村、広域連合、観光関係団体、経済関係団体、民間事業者、NPO 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊客用の観光パンフレット等作成</li> <li>・近隣地域の地元メディア等を活用した魅力発信</li> </ul>		

## 2 観光に関わる基盤の整備と活用

### (1) サービスの質を向上し「稼ぐ力」を創出

- 東三河を訪れる観光客の滞在時間は短く、観光消費を高めていくことが課題となっている。  
そのために、滞在の長期化や周遊性の向上に向けた取組とあわせて、積極的にサービスの質を向上し、収益性を高める取り組みを進めて行く必要がある。
- 歴史文化等の地域資源が集積する強みを活かした歴史探訪、産業遺構等の資源を活かした産業観光や豊かな自然を活かしたグリーンツーリズム、健康志向に対応したヘルスツーリズム等、テーマ性が強く人や自然とのふれあいや体験的要素のあるコンテンツを活かして、付加価値の高い着地型観光商品を開発していく。
- 収益性の向上には、優良顧客の獲得が求められることから、宿泊者を対象としたプロモーションに力を入れていく。

#### 【工程表】

取組内容	主な取組主体	実施年度		
		H 2 9	H 3 0	H 3 1
<b>①新たな観光スタイルの創出に向けた取組の推進</b>				
・クルーズ船寄港地観光の検討	市町村、観光関係団体、経済関係団体、民間事業者等	・体験プログラムや周遊ツアープログラムの検討		
・飯田線を活用した観光振興	経済関係団体、民間事業者、観光関係団体	・飯田線プロジェクトの推進（東三河広域経済連合会）		
・ロケツーリズムの推進	観光団体、経済関係団体、民間事業者、市町村、県	・ロケ誘致と連携したロケ地観光の推進 ・ロケ地マップ・ガイドの作成やタイアップイベント、ロケ地グルメ等の検討		
<b>②スポーツツーリズムの推進</b>				
・スポーツツーリズムの推進	県、市町村、観光関係団体、経済関係団体、民間事業者等	・本格的スポーツ大会の育成及び大会と合わせた特産品販売や観光情報の発信等を通じた大会の出場者や観戦者の周遊を促す仕組みの検討 ・セーリング世界大会の誘致・開催（蒲郡市） ・DOS <sup>※1</sup> 事業の推進（新城市） ・スポーツ雪合戦等の新たなウィンタースポーツによる茶臼山の振興（豊根村）		
・自転車を活用した観光振興		・サイクリングイベントの開催		

※1 「Do Outdoor Sports」の略。

取組内容	主な取組主体	実施年度		
		H 2 9	H 3 0	H 3 1
・スポーツ大会の連携強化	市町村、主催団体、県			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・奥三河マラソンシリーズの実施（新城市、東栄町、豊根村、県）</li> </ul>		
<b>③イベント・コンベンション等を活用した観光の推進</b>				
・イベント・コンベンション等の誘致促進	観光関係団体（市町村と連携・推進）、経済関係団体			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント・コンベンションの誘致促進に向けた支援サービスの実施及び観光情報の提供</li> <li>・会場選択、会議運営等に対する支援サービス</li> <li>・イベント・コンベンション開催時の観光情報の提供やエクスカージョン実施への協力</li> <li>・イベント・コンベンション開催後における、観光情報を継続して発信する仕組みづくりの検討</li> </ul>		
・愛知デスティネーションキャンペーン（あいち DC）を活用した誘客	県、市町村、観光関係団体、経済関係団体、民間事業者			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいち DC 開催に向けた検討</li> <li>・プレキャンペーンの検討・実施</li> <li>・地域伝統芸能全国大会の検討・実施</li> <li>・アフターキャンペーンの検討・実施</li> </ul>		
・県民の森での各種イベント等の開催	（公財）愛知公園協会（県と連携・推進）			
・文化芸術による創造的な地域の魅力づくりの推進	住民・地域団体・NPO・文化芸術団体・経済関係団体（県・市町村と連携・推進）			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化芸術を基軸としたイベント開催</li> <li>・アートによるまちの魅力発信事業（豊橋市）</li> <li>・文化ホール公演事業（豊川市）</li> <li>・くらふとフェア蒲郡事業（蒲郡市）</li> <li>・花祭、チェンソーアート競技大会等の開催（東栄町）</li> </ul>		
<b>④多様な活動を通じた魅力発信</b>				
・ロケ誘致による東三河の魅力発信	観光関係団体、経済関係団体、民間事業者、県、市町村			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ほの国東三河ロケ応援団」等による誘致促進や、作品の舞台となった地域の魅力を作品や付随するプロモーション活動に合わせて情報発信</li> <li>・「愛知県ロケ地情報データベース」による情報発信</li> </ul>		
・特産品を通じた情報発信	市町村、経済関係団体、農業関係団体、観光関係団体			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・特産品のインターネット販売の促進</li> <li>・東三河の選りすぐりの特産品をインターネットで販売（豊橋お土産・特産品ショップ「ええじゃないか通販」の販売品目拡大）</li> <li>・チャレンジとよかわ活性化事業（豊川市）</li> <li>・販路開拓支援事業（豊川市）</li> </ul>		

取組内容	主な取組主体	実施年度		
		H 2 9	H 3 0	H 3 1
<ul style="list-style-type: none"> <li>農林水産物を利用した新商品開発や販路拡大機会の提供</li> </ul>	県、市町村、経済関係団体、農業関係団体、民間事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>商談会やコンテスト等の開催による新商品開発や販路拡大機会の提供</li> <li>農林水産物のトップセールスの実施</li> <li>のんほいロット新城軽トラ市やまちなかマルシェ等の定期的開催</li> <li>奥三河 STT48 プロジェクトの推進</li> <li>県農林水産物や農林漁業者の取組の掘り起こし</li> <li>地域の特色を活かした水産業の振興</li> <li>農産品販路開拓ブランド力向上事業(蒲郡市)</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>ご当地キャラクターを活用した東三河の魅力発信</li> </ul>	市町村、観光関係団体、経済関係団体、民間事業者、NPO	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご当地キャラクターの魅力を相互に活用するプロモーション活動の展開</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>海外からの誘客強化</li> </ul>	県、市町村、観光関係団体、経済関係団体、民間事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>「昇龍道プロジェクト」との連携推進</li> <li>三遠南信・伊勢志摩広域観光交流連携協議会での外国人観光客誘致に向けたプロモーション活動の展開</li> <li>岡崎・蒲郡インバウンド協議会での外国人観光客誘致に向けたプロモーション活動の展開</li> <li>「中部広域観光推進協議会」や「東海地区外国人観光客誘致促進協議会」での海外プロモーションや招せい事業等への参加</li> <li>各種広報媒体の多言語化</li> <li>海外での旅行博覧会等でのプロモーション実施(蒲郡市観光協会)</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用した情報発信力の強化(再掲)</li> </ul>	県、市町村、広域連合、観光関係団体、経済関係団体、民間事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページ、SNS、スマートフォンアプリ等ICTによる効果的な情報発信の展開</li> <li>動画等による効果的な情報発信の展開</li> </ul>		




## (2) 観光案内の質の向上・人材の育成

- 新東名開通を契機として増加が期待される観光客に対応するため、観光案内業務の体制強化に向けた取組を進めて行く必要がある。
- 観光客を呼び込むだけでなく、観光客の満足度向上のため、現地での情報発信や受入体制の充実・整備の取組を推進する。
- 案内業務等サービスの質を向上させ、観光客の満足度にも繋がる「ふれあい」や「おもてなし」の実現のため、地域の歴史文化を始めとした知識の習得のための講座実施等、観光客の多様なニーズに応えられる人材の育成・確保に向けた取組を推進する。
- 将来的にマーケティング、マネジメントを重視した観光地経営を進めることができる専門人材の確保や、専門知識を有する人材の育成を検討していく。

### 【工程表】

取組内容	主な取組主体	実施年度		
		H 2 9	H 3 0	H 3 1
<b>①観光地域づくりの中心となる組織基盤の充実</b> ・DMO <sup>※1</sup> の設立と運営	県、市町村、広域連合、観光関係団体、経済関係団体、民間事業者等			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;">             ・奥三河 DMO（仮称）の設立・運営              ・東三河地域での DMO の設立に向けた検討           </div>				
<b>②案内業務等の強化に向けた検討</b> ・観光を担う人材の確保・育成	観光関係団体（県・市町村と連携推進）、民間事業者			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;">             ・観光先進地域や専門家等から学ぶ講座の開催              ・おもてなし環境の整備・機運の盛り上げ           </div>				
・観光先進地域との協力体制の構築	観光関係団体（市町村と連携推進）			
・海外からの誘客強化に向けた受入環境づくり	県、市町村、観光関係団体、経済関係団体、民間事業者			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;">             ・県内観光事業者との連携による観光情報の多言語表示、カード決済機能の拡充など受入体制充実に向けた検討           </div>				
・観光客への現地での情報提供の充実	観光関係団体（県、市町村と連携）、民間事業者等			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;">             ・観光協会や観光案内所の機能強化              ・観光案内所等での発信情報の検討              ・観光パンフレットの内容検討              ・隙間時間活用や旬な体験の情報発信の検討           </div>				

※1 「Destination Management/Marketing Organization」の略。地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに、地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりを行う推進体制で、具体的には、地域において、様々な資源を組み合わせた観光地の一体的なブランドづくり、ウェブ、SNS 等を活用した情報発信・プロモーション、効果的なマーケティング、戦略策定等を行う。

取組内容	主な取組主体	実施年度		
		H 2 9	H 3 0	H 3 1
<b>③観光ボランティアの担い手拡大 や観光ガイドへの支援</b> ・研修会等を通じたボランティアガイド等の観光人材の育成 ・観光ガイドへの支援 ・地域住民を含めた地域全体でおもてなしを実現するための検定試験等の実施	県、市町村、観光関係団体			
	観光関係団体 (県、市町村と連携)、経済関係団体、NPO等			
	市町村、蒲郡市観光ビジョン推進委員会、観光関係団体			
		・観光ボランティア養成講座の開催		
		・観光ガイド組織の立ち上げ支援の検討 ・観光ガイドの育成支援に関する検討		
		・おもてなし人材育成事業（豊川市） ・「蒲郡観光交流おもてなしコンシェルジュ」検定試験の実施（蒲郡市観光ビジョン推進委員会）		



### (3) 基盤・施設の整備促進

- 新東名開通により増加する観光客に対応するには、交通インフラや案内施設等の観光基盤整備を進めるとともに、交通インフラや案内施設等の既存インフラの効率的運用を図って行く必要がある。
- 東三河地域では、三遠南信自動車道などの高規格幹線道路や名豊道路などの地域高規格道路の整備が進みつつあるが、東三河を広域観光エリアとして周遊性を高めていくためには、エリア内を快適・便利に移動できる道路インフラをネットワーク化することが重要である。このため、三遠南信自動車道や名豊道路の早期供用を図り、浜松三ヶ日・豊橋道路の早期実現に向けて国に働きかけるとともに、山間地域から渥美半島に至る東三河地域が一体となるための東三河縦貫道路（国道 151 号、257 号、259 号等）や国道 420 号、473 号等の奥三河幹線道路（北設井桁幹線道路等）の整備を進め、交通ネットワーク機能を強化していく。
- 周遊性を高めるため、地域特性や季節のニーズに応じた二次交通の充実強化に向けた検討を行う。  
さらに、地域の玄関でもあり情報提供等の拠点ともなる道の駅や観光案内所の機能向上や連携、案内看板等の統一化の検討等、観光客の受入体制を整備・強化していく。
- 案内看板の多言語化等、外国人観光客の受け入れ態勢の整備を進めるとともに、海外にも広く伝わる情報発信施策を展開していく。

#### 〔工程表〕

取組内容	主な取組主体	実施年度		
		H 2 9	H 3 0	H 3 1
<b>①東三河南北軸等交通ネットワークの強化</b>				
・三遠南信自動車道の早期供用に向けた国への働きかけ	県、市町村、経済関係団体	→		
・名豊道路の早期供用に向けた国への働きかけ	県、市町村、経済関係団体	→		
・浜松三ヶ日・豊橋道路の早期実現に向けた国への働きかけ	県、市町村、経済関係団体	→		
・東三河縦貫道路の整備促進	県	→		
・奥三河幹線道路の整備促進	県	→		
<b>②公共交通の運行形態の見直しや二次交通の充実に向けた検討</b>				
・公共交通の運行形態の見直し	県、市町村、観光関係団体、民間事業者	→		
		・運行ダイヤの接続やイベント時の臨時車両運行等の検討、事業者への働きかけ ・東海道新幹線における「ひかり号」の豊橋駅への停車列車の増便への働きかけ ・新城～名古屋間往復高速バス運行事業（新城市）		

取組内容	主な取組主体	実施年度		
		H 2 9	H 3 0	H 3 1
・二次交通の充実強化に向けた検討	県、市町村、観光関係団体、民間事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レンタサイクル、サイクルトレインの導入に向けた検討、事業者への働きかけ</li> <li>・公共交通ネットワーク形成事業（豊橋市）</li> <li>・観光二次交通検討事業（新城市）</li> <li>・自転車活用の環境整備（田原市）</li> </ul>		
<b>③観光施設や観光案内施設の整備</b>				
・観光案内所・道の駅・案内看板等の観光案内施設の充実	県、市町村、観光関係団体、民間事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光案内所、道の駅等のネットワーク化の検討</li> <li>・案内情報の整理・多言語化</li> <li>・観光案内のワンストップ化に向けた検討</li> <li>・道の駅の高質化</li> <li>・「道の駅」の整備（豊橋市、設楽町、東栄町）</li> </ul>		
・案内看板の表示の共通化による効果の検証	県、市町村、観光関係団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表示の共通化による効果の検証</li> </ul>		
・外国人観光客に対応する観光施設や情報発信の多言語化	県、市町村、観光関係団体、民間事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本政府観光局（JNTO）認定外国人観光案内所の認定取得に向けた検討</li> <li>・多言語での対応・情報発信</li> <li>・インバウンド倍増事業（豊橋市）</li> <li>・インバウンド対策事業（豊川市）</li> <li>・蒲郡市観光協会の多言語 HP のブラッシュアップの実施（蒲郡市）</li> </ul>		
・インターネット環境の利便性向上	県、市町村、観光関係団体、経済関係団体、民間事業者等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無料公衆無線 LAN の整備促進</li> </ul>		
・道路、街路樹等の環境美化	県、市町村、地域団体、NPO、住民	<ul style="list-style-type: none"> <li>・景観整備の推進</li> <li>・植栽による魅力の向上</li> </ul>		
<b>④公共交通網等を活用した周遊観光の促進</b>				
・鉄道網を活用した周遊促進	観光関係団体（市町村と連携・推進）、民間事業者、名鉄西尾・蒲郡線活性化協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR 飯田線、名鉄西尾・蒲郡線等を活かしたツアー造成などの周遊促進策の実施</li> <li>・名鉄西尾・蒲郡線利用促進事業（蒲郡市）</li> </ul>		
・鳥羽伊良湖航路を利用した観光商品づくりや船旅の魅力の情報発信	GOGO 三河湾協議会、鳥羽伊良湖航路活性化協議会、観光関係団体（市町村と連携・推進）、民間事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GOGO 三河湾事業（蒲郡市、田原市）</li> <li>・鳥羽伊良湖広域観光推進（田原市）</li> </ul>		

## V 推進体制等について

### 1 推進体制

工程表に明記した各主体が、それぞれの強みを活かした取組を着実に推進していく。

あわせて、東三河全域の観光振興を推進する官民共同組織である「愛知県東三河広域観光協議会※」が核となり、県や市町村、各種取組主体と連携・協力しながら、推進プラン全般の先導的役割を発揮し各取組み間相互の調整を図ることで、取組み効果を高めるとともに、実効性を確保していく。

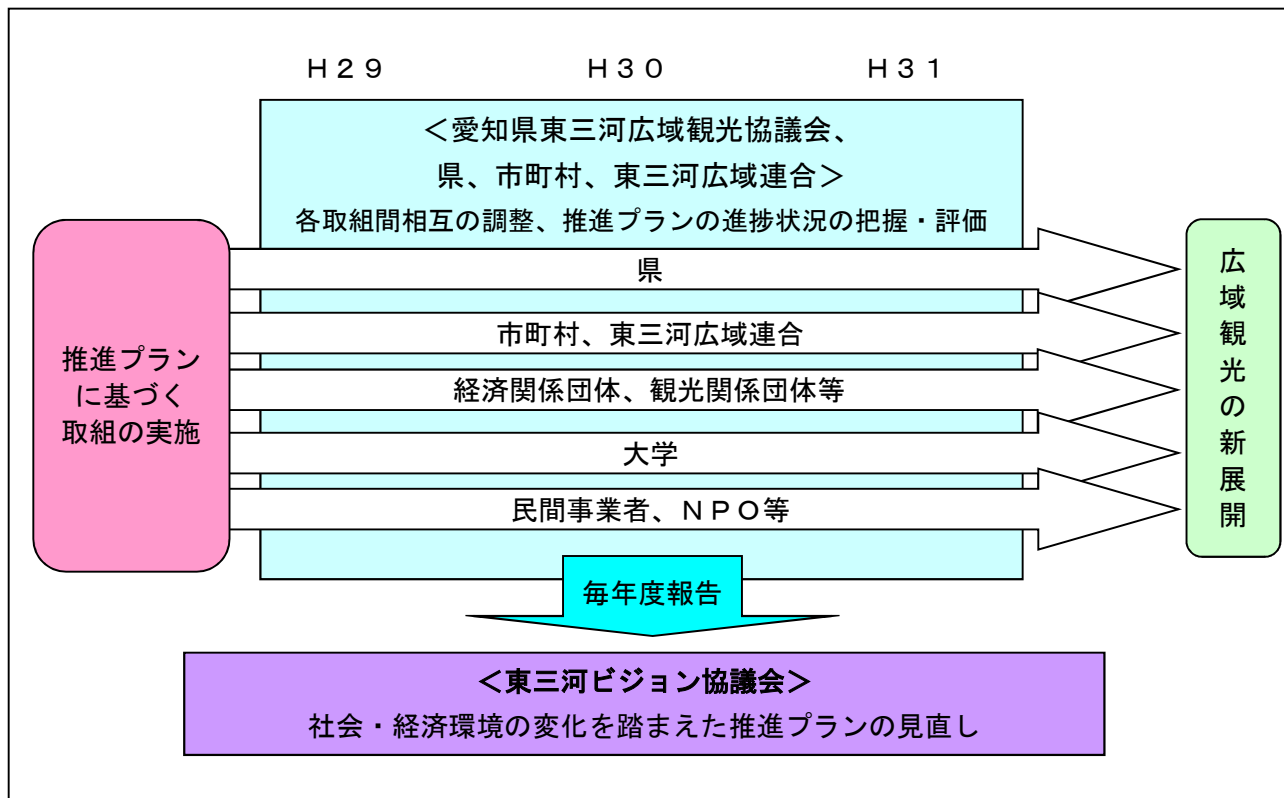
※ 愛知県東三河の各市町村の行政、観光関係団体、商工会議所・商工会等が連携して、各地域が保有する観光資源・地域資源を活用し、観光誘致を図ることを目的として平成10年4月に設立された団体

### 2 推進プランの進捗状況の把握及び見直しについて

「愛知県東三河広域観光協議会」、県、市町村、東三河広域連合が連携・協力しながら、毎年度、推進プランに基づいて実施する取組の進捗状況の把握及び評価を実施し、東三河ビジョン協議会へ報告していく。

東三河ビジョン協議会においては、社会・経済環境の変化を踏まえて随時ローリングを行うなど、推進プランを柔軟に見直していく。

#### 【推進イメージ】



## **VI 平成 28 年度先導事業**

### **1 (仮称) 新東名開通効果検証事業 (愛知県事業)**

---

(調整中)

### **2 東三河ブランドショップ実証実験 (東三河広域連合事業)**

---

(調整中)

### **3 東三河魅力発信事業 (東三河広域連合事業)**

---

(調整中)

## VII 参考資料

### 1 策定経緯

#### (1) 平成 28 年度の東三河ビジョン協議会等の開催状況

年 月 日	主な内容
H28. 6. 1	第 1 回 観光ワーキング
H28. 7. 1	第 1 回 東三河ビジョン協議会 企画委員会（以下「企画委員会」） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 将来ビジョン及び主要プロジェクト推進プラン（平成 25・26 年度策定）の進捗状況について</li> <li>・ 平成 24 年度策定主要プロジェクト推進プラン「～広域観光の推進～」の目標達成状況と主な取組結果について</li> <li>・ 主要プロジェクト推進プラン（平成 28 年度「新東名インパクトを活かした地域振興～広域観光の新展開～」）の骨子案について</li> </ul>
H28. 7. 29	第 1 回 東三河ビジョン協議会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 将来ビジョン及び主要プロジェクト推進プラン（平成 25・26 年度策定）の進捗状況について</li> <li>・ 平成 24 年度策定主要プロジェクト推進プラン「～広域観光の推進～」の目標達成状況と主な取組結果について</li> <li>・ 主要プロジェクト推進プラン（平成 28 年度「新東名インパクトを活かした地域振興～広域観光の新展開～」）の骨子案について</li> </ul>
H28. 11. 9	第 2 回 観光ワーキング
H28. 11. 17	第 2 回 企画委員会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 28 年度主要プロジェクト推進プランの中間とりまとめ(案)について</li> </ul>
H28. 12. 26	第 2 回 東三河ビジョン協議会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 28 年度主要プロジェクト推進プランの中間とりまとめ(案)について</li> </ul>
H28. 1. xx～2. xx	パブリックコメント <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東三河振興ビジョン「主要プロジェクト推進プラン」中間とりまとめに対する意見の募集</li> </ul>
H29. 2. xx	第 3 回 企画委員会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県民意見募集の結果について</li> <li>・ 平成 28 年度主要プロジェクト推進プランの最終とりまとめについて</li> <li>・ 平成 28 年度主要プロジェクト推進プランのテーマ候補について</li> </ul>
H29. 3. xx	第 4 回 企画委員会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 28 年度主要プロジェクト推進プラン(案)について</li> <li>・ 平成 29 年度主要プロジェクト推進プランのテーマ(案)について</li> </ul>
H29. 3. xx	第 3 回 東三河ビジョン協議会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 28 年度主要プロジェクト推進プラン(案)について</li> <li>・ 平成 29 年度主要プロジェクト推進プランのテーマ(案)について</li> </ul>

※ 観光ワーキング参加機関

・ 豊橋市、豊川市、蒲郡市、新城市、田原市、設楽町、東栄町、豊根村、愛知県

## (2) パブリックコメント

推進プランの中間とりまとめに対する意見の募集(パブリックコメント)を実施

募集期間	平成 29 年 1 月 日 から平成 29 年 2 月 日まで
意見募集の周知方法	県政記者クラブ・豊橋市政記者クラブへの記者発表 愛知県等のホームページへの掲載 東三河県庁（東三河総局）・東三河 8 市町村・東三河広域連合等での 閲覧
意見募集の結果	意見の提出者数： 人 意見の件数： 件

**東三河振興ビジョン【主要プロジェクト推進プラン】**  
**新東名インパクトを活かした地域振興～広域観光の新展開～**

発行年月 平成 29 年 月  
発行 東三河ビジョン協議会  
(事務局：愛知県東三河総局企画調整部企画調整課内)  
〒440-8515 愛知県豊橋市八町通五丁目 4  
電話 0532-35-6100 (ダイヤル)

# 東三河振興ビジョン【主要プロジェクト推進プラン】新東名インパクトを活かした地域振興～広域観光の新展開～（中間とりまとめ案）概要版

**I【策定方針】**  
 <位置付け> 県、市町村、東三河広域連合、経済関係団体、観光関係団体、大学、民間事業者、NPO等が連携・協働して展開する実施計画。平成24年度に策定した主要プロジェクト推進プラン「広域観光の推進」（以下「24プラン」という。）の検証を踏まえ、取組の更なる重点化の観点からテーマを設定。  
 <策定主体> 東三河ビジョン協議会（県、東三河の8市町村、東三河広域連合、経済関係団体、大学等で構成）  
 <計画期間> 平成29年度から平成31年度までの3年間

**II【現状と課題】**  
 ○ 24プランでは、観光資源の活用を図りながら、イベントやスポーツ大会の開催、施設整備等、様々な取組を行い、着実に成果を積み重ねてきた。その結果、東三河を訪れる観光客は2,316万人、宿泊者数は199万人を超え、設定した目標を概ね達成することができた。  
 ○ 平成28年2月には新東名高速道路愛知県区間が開通し、さらなる観光客の増加が期待される。  
 ○ 東三河の観光の現状を踏まえると、観光客の動きの変化への対応、観光客数の増加を収益に結び付ける取組の充実、観光客の受入体制の整備、海外からの誘客強化に向けた取組を、重点的に進める必要がある。

**III【目標】**  
 観光交流人口の拡大と観光客の増加を収益に結び付ける取組を進めるため、次の3つの数値目標を設定

<b>目標1 観光客入込数の増加</b>	<現状> (H27) 約 23,158 千人	約 万人 (約 %) 増加	<目標> (H31) 千人
<b>目標2 宿泊者数の増加</b>	<現状> (H27) 約 1,999 千人	約 万人 (約 %) 増加	<目標> (H31) 千人
<b>目標3 道の駅の売上額の増加</b>	<現状> (H27) 約 1,737 百万円	約 百万円 (約 %) 増加	<目標> (H31) 百万円

## IV【2つの方針と6の主な取組】

**1 新東名インパクトの検証と活用**  
**(1) 新東名インパクトの検証**  
 ①新東名開通インパクトの検証 ②観光に関するデータの収集  
**(2) 新東名開通により変化する観光客の動きへの対応**  
 ①変化する観光客の動きに対応した観光コンテンツの充実 ②広域的な周遊性の強化  
**(3) 新東名開通効果のPR**  
 ①地域外に向けたPRの実施 ②東三河が一体となったPRの実施  
 ③リピーターの獲得に向けた取組

**2 観光に関わる基盤の整備と活用**  
**(1) サービスの質を向上し「稼ぐ力」を創出**  
 ①新たな観光スタイルの創出に向けた取組の推進 ②スポーツツーリズムの推進  
 ③イベント・コンベンション等を活用した観光の推進  
 ④多様な活動を通じた魅力発信  
**(2) 観光案内の質の向上・人材の育成**  
 ①観光地域づくりの中心となる組織基盤の充実 ②案内業務等の強化に向けた検討  
 ③観光ボランティアの担い手拡大や観光ガイドへの支援  
**(3) 基盤・施設の整備促進**  
 ①東三河南北軸等交通ネットワークの強化  
 ②公共交通の運行形態の見直しや二次交通の充実に向けた検討  
 ③観光施設や観光案内施設の整備 ④公共交通網等を活用した周遊観光の促進

**V【推進体制等】**  
 <推進体制>  
 ○各主体がそれぞれの取り組みを着実に推進  
 ○「愛知県東三河広域観光協議会」が核となり、県や市町村、東三河広域連合、各種取組主体と連携・協力しながら、各取り組み間相互の調整を図り、取り組み効果を高め、実効性を確保  
 <推進プランの進捗状況の把握及び見直し>  
 ○「愛知県東三河広域観光協議会」、県、市町村、東三河広域連合が連携・協力しながら、毎年度、進捗状況の把握及び評価を実施し、東三河ビジョン協議会へ報告  
 ○東三河ビジョン協議会において、社会経済環境の変化を踏まえて、随時ローリングを行い柔軟に見直し

**VI【平成28年度先導事業】**  
 1 (仮称) 新東名開通効果検証事業 (愛知県事業)  
 ビッグデータを活用し、新東名開通前後における観光客の動きやニーズの変化を検証  
 2 東三河ブランドショップ実証実験 (東三河広域連合事業)  
 (調整中)  
 3 東三河魅力発信事業 (東三河広域連合事業)  
 (調整中)